

厚生省生活衛生局 殿

試 験 報 告 書

トリメチルシラノールの細菌を用いる復帰突然変異試験

(試験番号：6L682)

株式会社三菱化学安全科学研究所

目次

要約	7
材料および方法	8
1. 試験物質	8
2. テスト菌株	8
3. 培地	9
4. S9 mix	10
5. 試験方法	10
結果および結論	12
参考文献	13
表	14
図	17

要 約

トリメチルシラノールについて、*Salmonella typhimurium* TA98, TA100, TA1535, TA1537 および *Escherichia coli* WP2uvrA の 5 菌株を指標とする復帰変異試験を実施した。

予備試験を 5000 ~ 1.22 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ (公比 4) の 7 濃度で実施した結果、S9 mix の有無によらず、いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また、S9 mix 非共存下では TA100, TA1535 の 5000 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ で、共存下では TA100 の 5000 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ で抗菌性が認められた。この結果をもとに、S9 mix 非共存下の TA100, TA1535 は 5000 ~ 156 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ (公比 2) の 6 濃度、WP2uvrA, TA98, TA1537 は 5000 ~ 313 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ (公比 2) の 5 濃度を、S9 mix 共存下の TA100 は 5000 ~ 156 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ (公比 2) の 6 濃度、TA1535, WP2uvrA, TA98, TA1537 は 5000 ~ 313 $\mu\text{g}/7^\circ\text{v}$ (公比 2) の 5 濃度をそれぞれ設定し、本試験を 2 回実施した。

本試験 1, 2 を実施した結果、S9 mix の有無によらず、いずれの菌株においても陰性 (溶媒) 対照値の 2 倍以上を示す復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。

以上の結果から、トリメチルシラノールは細菌を用いる復帰突然変異試験において変異原性を有さない (陰性) と結論した。

材料および方法

1. 試験物質

1.1 被験物質

から送付されたトリメチルシラノール

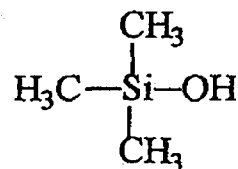
(CAS 番号：1066-40-6, ロット番号： 純度 99.8 %) を冷蔵, 暗所に保存し,

使用した。被験物質は下記の構造式, 分子量を有する無色透明の液体である。試験に

使用したロットの安定性は, 実験開始前および実験終了後に被験物質供給者が分析し,

確認した。

構造式：



分子量：90.19

不純物：ヘキサメチルジシロキサン 0.2 %

1.2 対照物質

陰性 (溶媒) 対照物質および陽性対照物質として, 以下のものを用いた。

対照物質名	略称	入手先	ロット番号	純度 (%)
陰性対照 ジメチルスルホキシド	DMSO	関東化学(株)	804S1844	99.7
陽性対照 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル) アクリルアミド	AF-2	和光純薬工業(株)	PTQ1296	98.8
7ジ化ナトリウム	NaN ₃	和光純薬工業(株)	KWE6685	96.5
N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグアニジン	ENNG	Sigma Chemical Company	56F-3651	99.0
9-アミノアクリジン	9-AA	Sigma Chemical Company	80F-0186	99
2-アミノアントラセン	2-AA	和光純薬工業(株)	TWH2355	98.0

2. テスト菌株^{1) 2)}

2.1 テスト菌株

より 1983 年 5 月 27 日に入手した *Salmonella*

typhimurium TA98, TA100, TA1535, TA1537 および

よ

り 1985 年 10 月 14 日に入手した *Escherichia coli* WP2uvrA の 5 菌株を用いた。

これら菌株の遺伝的特性は以下のとおりである。

菌 株	変異遺伝子	付帯突然変異			突然変異型
		修復	膜	R 因子	
TA98	<i>hisD</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	pKM101	フレームシフト
TA100	<i>hisG</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	pKM101	塩基対置換
TA1535	<i>hisG</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	—	塩基対置換
TA1537	<i>hisC</i>	<i>uvrB</i>	<i>rfa</i>	—	フレームシフト
WP2 <i>uvrA</i>	<i>trpE</i>	<i>uvrA</i>	+	—	塩基対置換

2.2 特性検査

各テスト菌株のアミノ酸要求性、紫外線感受性、膜変異、薬剤耐性などの遺伝的特徴を事前に調べ、これらの特性を備えた菌株を用いた。

2.3 保存方法

液体完全培地中に 37 °C で 8 時間振盪培養した各菌懸濁液 4 ml に対し、0.35 ml の割合で DMSO (関東化学(株), ロット番号 804S1844) を加えた。これを 200 μ l ずつ小分けしてドライアイス・アセトン中で急速凍結し、超低温槽で -80 °C 以下に凍結保存したものを使用した。

2.4 菌懸濁液

凍結保存した各菌懸濁液を解凍後、各々 20 μ l を液体完全培地 10 ml に接種し、37 °C で 8 時間振盪培養した。菌懸濁液は、濁度計を用いて菌濃度を測定し、各菌株共に生菌数が 1×10^9 /ml 以上であることを確認した。

3. 培 地

3.1 液体完全培地

精製水 1 l に対し、ニュートリエントブロス (Oxoid Nutrient Broth No.2 ; Unipath 社, ロット番号 067 54134) 25 g の割合で溶解し、オートクレーブ滅菌 (121 °C, 15 分間 ; 以下同様) した。

3.2 最少グルコース寒天平板培地

クリメディア AM-N 培地 (オリエンタル酵母工業(株), ロット番号 AN810JL) を購入し、使用した。

3.3 トップアガー

精製水 100 ml に対して、粉末寒天 (Bacto-Agar ; Difco 社, ロット番号 58007AJA)

0.6 g, 塩化ナトリウム 0.5 g の割合で加え, オートクレーブ滅菌し完全に溶解した。その後, あらかじめ調製しておいた 0.5 mM D- ビオチン, L- ヒスチジン, L- トリプトファン混合水溶液を 1/10 量添加した。使用時まで約 45 °C に保温した。

4. S9 mix

4.1 S9

フェノバルビタール(1日目 30 mg/kg, 2日目以降 60 mg/kg を3回腹腔内投与)と5,6-ベンゾフラボン(3日目に 80 mg/kg を1回腹腔内投与)で酵素誘導したSD系雄ラット肝由来S9(キッコーマン㈱, ロット番号 RAA-355 : 1996年11月22日製造)を購入し, 使用した。使用時まで -80 °C 以下で保存した。

4.2 S9 mix

S9 mix 1 ml あたり以下の組成で調製し, 使用時まで氷中に保存した。

S9	0.1 ml
塩化マグネシウム六水塩	8 μ mol
塩化カリウム	33 μ mol
D-グルコース 6-リン酸	5 μ mol
β -NADPH	4 μ mol
β -NADH	4 μ mol
ナトリウム-リン酸緩衝液 (pH 7.4)	100 μ mol
滅菌精製水	残量

5. 試験方法³⁾

5.1 被験物質溶液および陽性対照物質溶液の調製

溶媒検討の結果, 50 mg/ml の濃度で水に不溶, DMSO に溶解したため, 溶媒には DMSO を用いた。被験物質を 50 mg/ml の濃度で DMSO に溶解し, これを希釈して各濃度の被験物質溶液を調製した。

陽性対照物質の NaN₃ は注射用水(㈱大塚製薬工場, ロット番号 K5G85)に, その他は DMSO(関東化学㈱, ロット番号 708S1611)に溶解した。

5.2 被験物質濃度

予備試験を 5000, 1250, 313, 78.1, 19.5, 4.88, 1.22 μ g/7°レートの7濃度で実施した結果, S9 mix の有無によらず, いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また, S9 mix 非共存下では TA100, TA1535 の 5000 μ g/7°レートで, 共存下では TA100 の 5000 μ g/7°レートで抗菌性が認められた。この結果をもとに, 本試験では S9 mix 非共存下の TA100, TA1535 は 5000 ~ 156 μ g/7°レート(公比2)の6濃度,

WP2uvrA, TA98, TA1537 は 5000 ~ 313 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比 2) の 5 濃度を, S9 mix 共存下の TA100 は 5000 ~ 156 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比 2) の 6 濃度, TA1535, WP2uvrA, TA98, TA1537 は 5000 ~ 313 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比 2) の 5 濃度をそれぞれ設定した。

5.3 復帰変異試験

試験はプレインキュベーション法で実施した。

滅菌した試験管に被験物質溶液 0.1 ml, 0.1 M ナトリウムーリン酸緩衝液 (pH7.4) 0.5 ml および菌懸濁液を 0.1 ml 加え, 37 °C で 20 分間振盪培養した。S9 mix を共存させる場合には, 0.1 M ナトリウムーリン酸緩衝液の代わりに, S9 mix を 0.5 ml 添加した。プレインキュベーション後, トップアガー 2 ml を上記の混合液に加え混和し, 最少グルコース寒天平板培地上に重層した。重層したトップアガーが凝固した後, 37 °C で 48 時間培養した。

実体顕微鏡を用いて菌叢の生育状態を観察し, 被験物質による抗菌性の有無を調べた後, プレート上の復帰変異コロニー数を自動コロニーカウンターで計測した。予備試験は各濃度につき 1 枚のプレートを使用した。本試験は各濃度につき 3 枚のプレートを使用し, 再現性を確認するため 2 回実施した。

陰性 (溶媒) 対照物質および以下の陽性対照物質についても同様に実施した。

菌 株	S9 mix 非共存下 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)		S9 mix 共存下 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)	
TA98	AF-2	0.1	2-AA	0.5
TA100	AF-2	0.01	2-AA	1
TA1535	NaN ₃	0.5	2-AA	2
TA1537	9-AA	80	2-AA	2
WP2uvrA	ENNG	2	2-AA	10

5.4 無菌試験

最高濃度の被験物質溶液または S9 mix をトップアガーと混和し, 最少グルコース寒天平板培地上に重層し, 雑菌の混入がないことを確認した。

5.5 試験結果の判定

いずれかの試験菌株で, S9 mix の有無によらず, 被験物質濃度の増加にともなって復帰変異コロニー数 (平均値) が陰性 (溶媒) 対照値の 2 倍以上に増加し, さらにその増加に再現性が認められる場合に, 当該被験物質は変異原性を有する (陽性) と判定した。その他の場合は陰性と判定した。試験結果の判定には統計学的手法は用いなかった。

結果および結論

結果を表1~3および図1~10に示す。

予備試験を5000~1.22 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比4)の7濃度で実施した結果、S9 mixの有無によらず、いずれの菌株においても復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。また、S9 mix 非共存下ではTA100, TA1535の5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ で、共存下ではTA100の5000 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ で抗菌性が認められた。この結果をもとに、S9 mix 非共存下のTA100, TA1535は5000~156 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比2)の6濃度、WP2uvrA, TA98, TA1537は5000~313 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比2)の5濃度を、S9 mix 共存下のTA100は5000~156 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比2)の6濃度、TA1535, WP2uvrA, TA98, TA1537は5000~313 $\mu\text{g}/\text{プレート}$ (公比2)の5濃度をそれぞれ設定し、本試験を2回実施した。

本試験1,2を実施した結果、S9 mixの有無によらず、いずれの菌株においても陰性(溶媒)対照値の2倍以上を示す復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。

S9 mix 非共存下および共存下のTA100, TA1535で抗菌性が認められた。

なお、S9 mix 非共存下および共存下において陽性対照が各菌株に誘発した復帰変異コロニー数は、各菌株の陰性対照の復帰変異コロニー数と比較して、明らかに2倍を超えて増加し、陽性の結果を示した。また、最高濃度の被験物質溶液およびS9 mixについて行った無菌試験の結果、試験の成立に影響を及ぼすような菌、カビ等の発育は認められなかった。

以上の結果から、トリメチルシラノールは本試験条件下では変異原性を有さない(陰性)と結論した。

なお、同物質あるいは類似化合物における細菌を用いる復帰突然変異試験に関する他の情報は得られなかった。

参 考 文 献

- 1) Maron, D.M. and Ames, B.N.(1983): Revised methods for the *Salmonella* mutagenicity test, *Mutat. Res.*, **113**, 173-215
- 2) Green, M.H.L., Muriel, W.J. (1976); Mutagen testing using *trp*⁺ reversion in *Escherichia coli*, *Mutat. Res.*, **38**, 3-32
- 3) 労働省安全衛生部化学物質調査課編 (1991): 安衛法における変異原性試験, 中央労働災害防止協会, 東京

表 1

予 備 試 験 結 果 表

被験物質の名称 : トリメチルシラノール (No. 6L682)

代謝活性 化系の 有 無	被験物質 濃 度 ($\mu\text{g}/7^\circ\text{レ-ト}$)	復帰変異数(コロニ-数/ 7°レ-ト)				
		塩 基 対 置 換 型			フ レ-ム シ フ ト 型	
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537
S 9 Mix (-)	溶媒対照	121	13	20	27	8
	1. 2 2	128	15	28	24	9
	4. 8 8	144	11	27	23	11
	1 9. 5	136	8	23	12	11
	7 8. 1	147	12	26	16	11
	3 1 3	161	9	22	12	8
	1 2 5 0	123	5	23	16	11
	5 0 0 0	114*	7*	28	19	9
S 9 Mix (+)	溶媒対照	150	12	27	28	14
	1. 2 2	158	8	30	25	17
	4. 8 8	137	17	23	37	15
	1 9. 5	151	11	27	34	16
	7 8. 1	138	8	29	21	11
	3 1 3	129	9	23	22	13
	1 2 5 0	165	12	41	34	11
	5 0 0 0	118*	6	32	30	14

(備 考) *: 抗菌性が認められた。

表 2

試験結果表 (本試験 1)

被験物質の名称 : トリメチルシラノール (No. 6L682)

代謝活性化系の有無	被験物質濃度 (μg/7°レ-ト)	復帰変異数 (コロニ-数/7°レ-ト)				
		塩基対置換型			フレームシフト型	
		TA100	TA1535	WP2 _{uvrA}	TA98	TA1537
S 9 Mix (-)	溶媒対照	116 103 128 (± 116)	11 17 7 (± 12)	25 28 28 (± 27)	9 12 13 (± 11)	6 9 9 (± 8)
	1 5 6	104 125 124 (± 118)	11 12 10 (± 11)	(±)	(±)	(±)
	3 1 3	122 142 149 (± 138)	7 10 16 (± 11)	30 23 38 (± 30)	13 13 18 (± 15)	4 5 9 (± 6)
	6 2 5	126 128 109 (± 121)	10 9 12 (± 10)	31 22 30 (± 28)	18 12 15 (± 15)	8 8 6 (± 7)
	1 2 5 0	109 105 107 (± 107)	13 15 13 (± 14)	27 24 26 (± 26)	12 19 18 (± 16)	11 6 8 (± 8)
	2 5 0 0	102 106 102 (± 103)	9 16 8 (± 11)	33 27 23 (± 28)	21 18 20 (± 20)	9 6 5 (± 7)
	5 0 0 0	121* 107* 131* (± 120)	6* 4* 5* (± 5)	36 28 39 (± 34)	19 14 16 (± 16)	9 4 8 (± 7)
S 9 Mix (+)	溶媒対照	143 136 120 (± 133)	11 15 9 (± 12)	34 32 34 (± 33)	26 41 28 (± 32)	12 13 12 (± 12)
	1 5 6	152 140 148 (± 147)	(±)	(±)	(±)	(±)
	3 1 3	133 157 112 (± 134)	10 17 13 (± 13)	30 37 31 (± 33)	22 31 23 (± 25)	11 8 15 (± 11)
	6 2 5	127 138 145 (± 137)	8 10 23 (± 14)	31 27 34 (± 31)	20 21 27 (± 23)	18 18 5 (± 14)
	1 2 5 0	139 117 103 (± 120)	9 16 16 (± 11)	29 28 29 (± 29)	21 40 26 (± 29)	8 15 16 (± 13)
	2 5 0 0	117 104 111 (± 111)	11 9 12 (± 11)	31 29 34 (± 31)	24 23 31 (± 26)	15 12 16 (± 14)
	5 0 0 0	110* 79* 110* (± 100)	13* 12* 12* (± 12)	37 32 39 (± 36)	23 27 27 (± 26)	10 17 19 (± 15)
陽性	名称	AF-2	NaN ₃	ENNG	AF-2	9-AA
	濃度 (μg/7°レ-ト)	0.01	0.5	2	0.1	80
対照	名称	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA
	濃度 (μg/7°レ-ト)	1	2	10	0.5	2
コロニ-数 / 7°レ-ト		538 596 566 (± 567)	455 433 414 (± 434)	564 526 514 (± 535)	608 570 505 (± 561)	442 368 451 (± 420)
コロニ-数 / 7°レ-ト		1014 1086 1042 (± 1047)	403 389 367 (± 386)	1743 1750 1948 (± 1814)	428 382 431 (± 414)	197 199 180 (± 192)

(備考) *: 抗菌性が認められた。

(平均値)
(±標準偏差)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド, NaN₃ : アソ³化ナトリウム,
ENNG : N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグ⁺アニジン, 9-AA : 9-アミノアクリジン, 2-AA : 2-アミノアソトラゼン

試験結果表 (本試験 2)

被験物質の名称 : トリメチルシラノール (No. 6L682)

代謝活性化系の有無	被験物質濃度 (μg/7°レ-ト)	復帰変異数(コロニ-数/7°レ-ト)					
		塩基対置換型			フレームシフト型		
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537	
S 9 Mix (-)	溶媒対照	97 110 { 114 } 136 { ± 20 }	24 18 { ± 16 } 6 { ± 9 }	31 24 { ± 29 } 32 { ± 4 }	20 13 { ± 14 } 10 { ± 5 }	9 3 { ± 5 } 3 { ± 3 }	
	1 5 6	90 122 { ± 116 } 135 { ± 23 }	13 12 { ± 11 } 9 { ± 2 }	{ ± }	{ ± }	{ ± }	
	3 1 3	109 132 { ± 120 } 120 { ± 12 }	10 13 { ± 12 } 13 { ± 2 }	33 32 { ± 31 } 28 { ± 3 }	11 16 { ± 12 } 9 { ± 4 }	4 5 { ± 5 } 6 { ± 1 }	
	6 2 5	114 118 { ± 117 } 119 { ± 3 }	14 11 { ± 10 } 4 { ± 5 }	40 34 { ± 33 } 26 { ± 7 }	11 17 { ± 15 } 16 { ± 3 }	11 5 { ± 7 } 4 { ± 4 }	
	1 2 5 0	119 84 { ± 109 } 124 { ± 22 }	12 8 { ± 11 } 14 { ± 3 }	32 27 { ± 32 } 38 { ± 6 }	16 17 { ± 16 } 16 { ± 1 }	5 5 { ± 7 } 10 { ± 3 }	
	2 5 0 0	126 98 { ± 110 } 106 { ± 14 }	12 12 { ± 11 } 10 { ± 1 }	39 27 { ± 36 } 41 { ± 8 }	11 19 { ± 17 } 22 { ± 6 }	7 11 { ± 9 } 9 { ± 2 }	
	5 0 0 0	129* 101* { ± 111 } 103* { ± 16 }	9* 12* { ± 11 } 12* { ± 2 }	34 26 { ± 30 } 29 { ± 4 }	19 20 { ± 18 } 16 { ± 2 }	10 9 { ± 9 } 8 { ± 1 }	
S 9 Mix (+)	溶媒対照	126 145 { ± 140 } 150 { ± 13 }	11 18 { ± 15 } 17 { ± 4 }	44 42 { ± 40 } 34 { ± 5 }	29 31 { ± 30 } 30 { ± 1 }	10 13 { ± 11 } 10 { ± 2 }	
	1 5 6	140 126 { ± 129 } 120 { ± 10 }	{ ± }	{ ± }	{ ± }	{ ± }	
	3 1 3	135 151 { ± 138 } 128 { ± 12 }	20 16 { ± 16 } 11 { ± 5 }	27 35 { ± 31 } 32 { ± 4 }	25 21 { ± 24 } 26 { ± 3 }	8 9 { ± 10 } 13 { ± 9 }	
	6 2 5	116 127 { ± 125 } 132 { ± 8 }	16 14 { ± 12 } 7 { ± 5 }	42 37 { ± 41 } 44 { ± 4 }	26 30 { ± 29 } 32 { ± 3 }	18 5 { ± 13 } 15 { ± 7 }	
	1 2 5 0	157 149 { ± 140 } 115 { ± 22 }	6 10 { ± 9 } 10 { ± 2 }	26 34 { ± 32 } 37 { ± 6 }	25 23 { ± 23 } 21 { ± 2 }	20 18 { ± 16 } 11 { ± 5 }	
	2 5 0 0	129 119 { ± 122 } 119 { ± 6 }	12 11 { ± 11 } 10 { ± 1 }	24 40 { ± 33 } 36 { ± 8 }	20 28 { ± 22 } 17 { ± 6 }	9 10 { ± 10 } 10 { ± 1 }	
	5 0 0 0	112* 104* { ± 117 } 134* { ± 16 }	14* 5* { ± 12 } 18* { ± 7 }	41 32 { ± 35 } 31 { ± 6 }	23 29 { ± 25 } 24 { ± 3 }	12 11 { ± 11 } 9 { ± 2 }	
陽性	S9Mixを必要としなもの	名称	AF-2	NaN ₃	ENNG	AF-2	9-AA
		濃度 (μg/7°レ-ト)	0.01	0.5	2	0.1	80
対照	S9Mixを必要とするもの	名称	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA
		濃度 (μg/7°レ-ト)	1	2	10	0.5	2
		コロニ-数 / 7°レ-ト	586 559 { ± 552 } 510 { ± 39 }	546 538 { ± 537 } 527 { ± 10 }	595 566 { ± 555 } 503 { ± 47 }	729 691 { ± 694 } 662 { ± 34 }	449 426 { ± 434 } 426 { ± 13 }
		コロニ-数 / 7°レ-ト	1236 1084 { ± 1101 } 982 { ± 128 }	497 446 { ± 457 } 427 { ± 36 }	1724 1743 { ± 1731 } 1727 { ± 10 }	421 412 { ± 428 } 452 { ± 21 }	214 202 { ± 187 } 146 { ± 36 }

(備考) *: 抗菌性が認められた。

(平均値)
(±標準偏差)

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド, NaN₃ : ナトリウムアジド, ENNG : N-エチル-N'-ニトロ-N-ニトロソグアニジン, 9-AA : 9-アミノアクリジン, 2-AA : 2-アミノアクリジン

図 1 (本試験 1)
被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

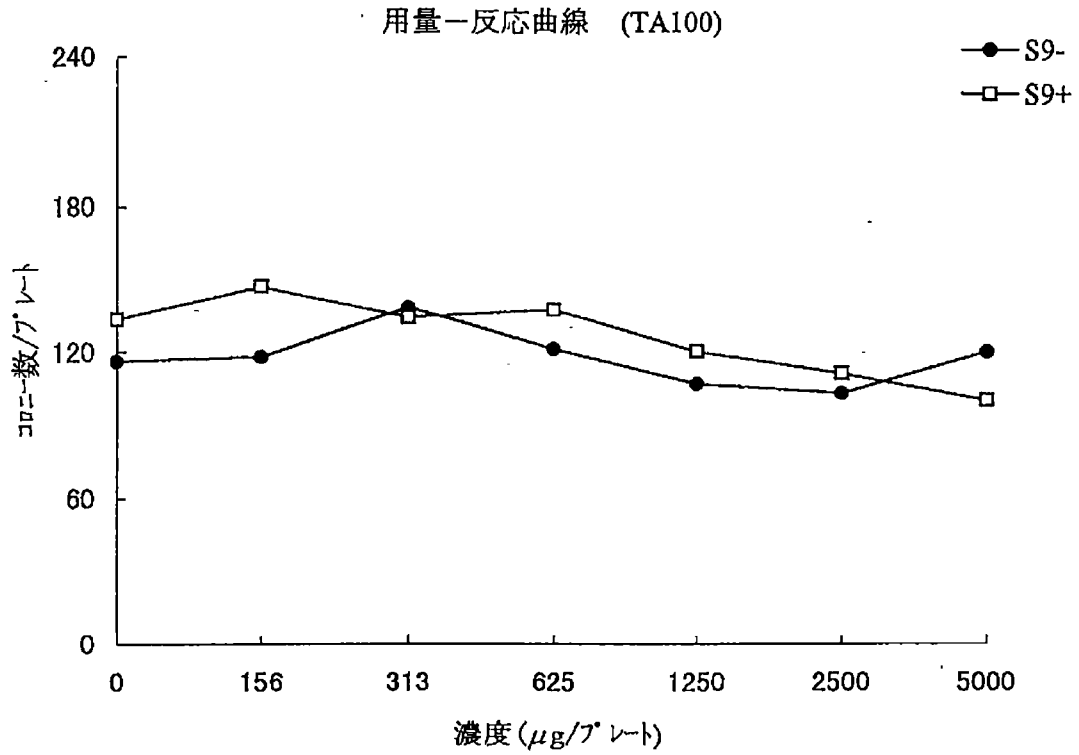


図 2 (本試験 1)
被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

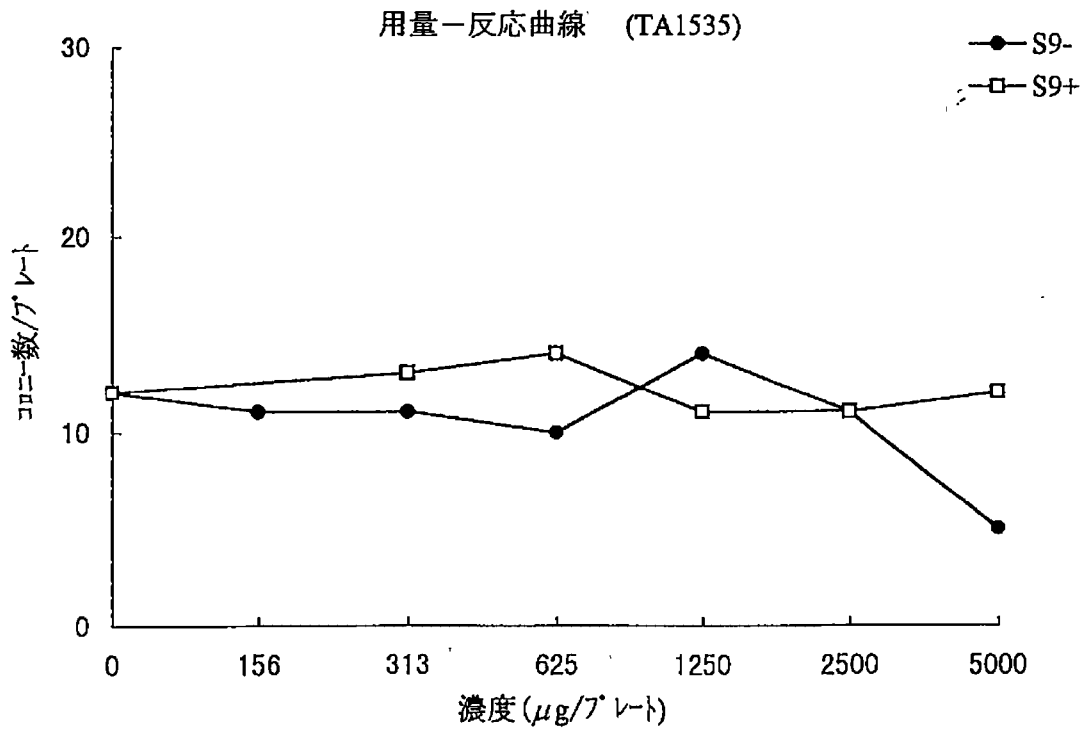


図 3 (本試験 1)

被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

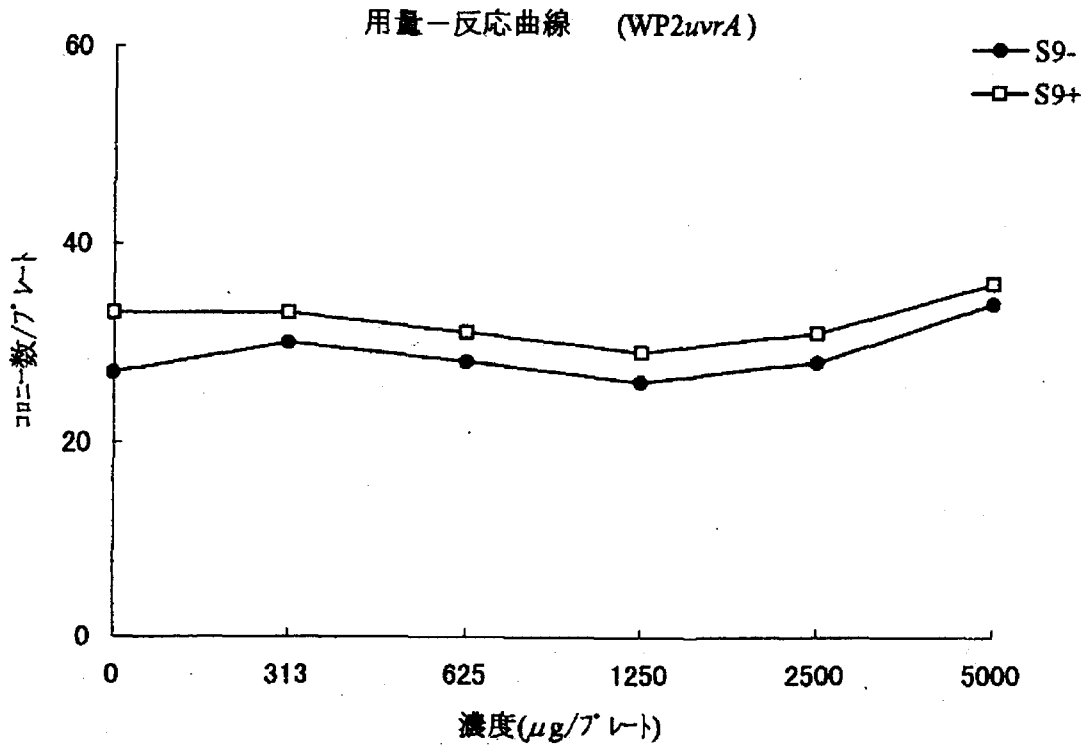


図 4 (本試験 1)

被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

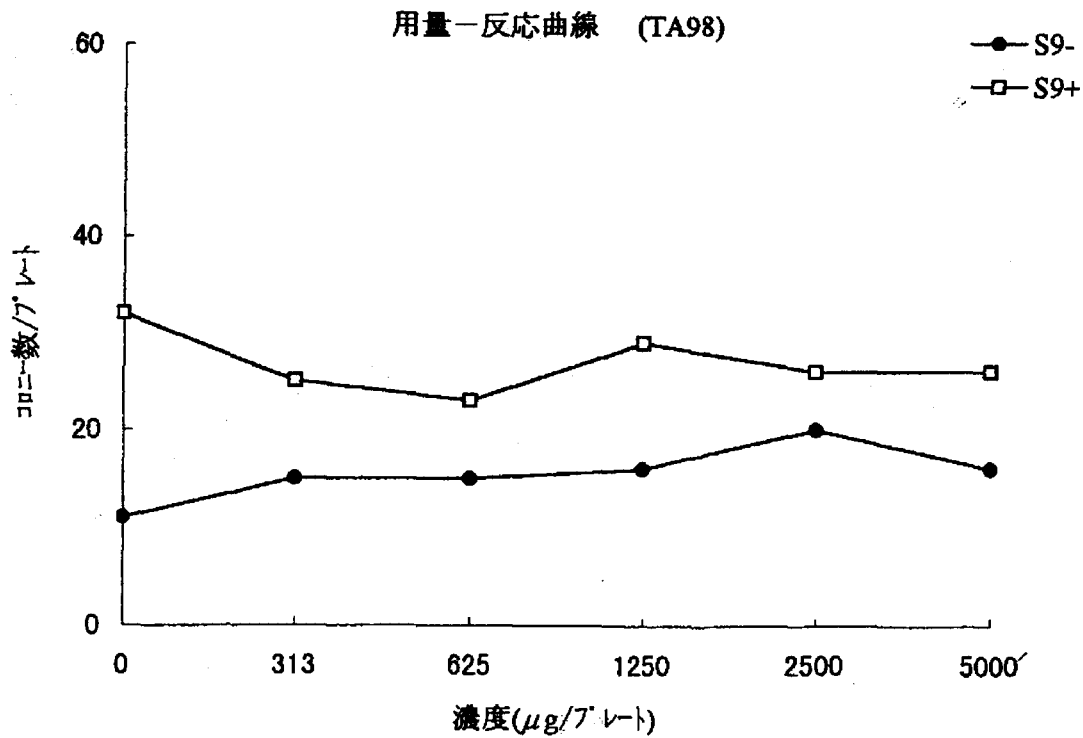


図 5 (本試験 1)
被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

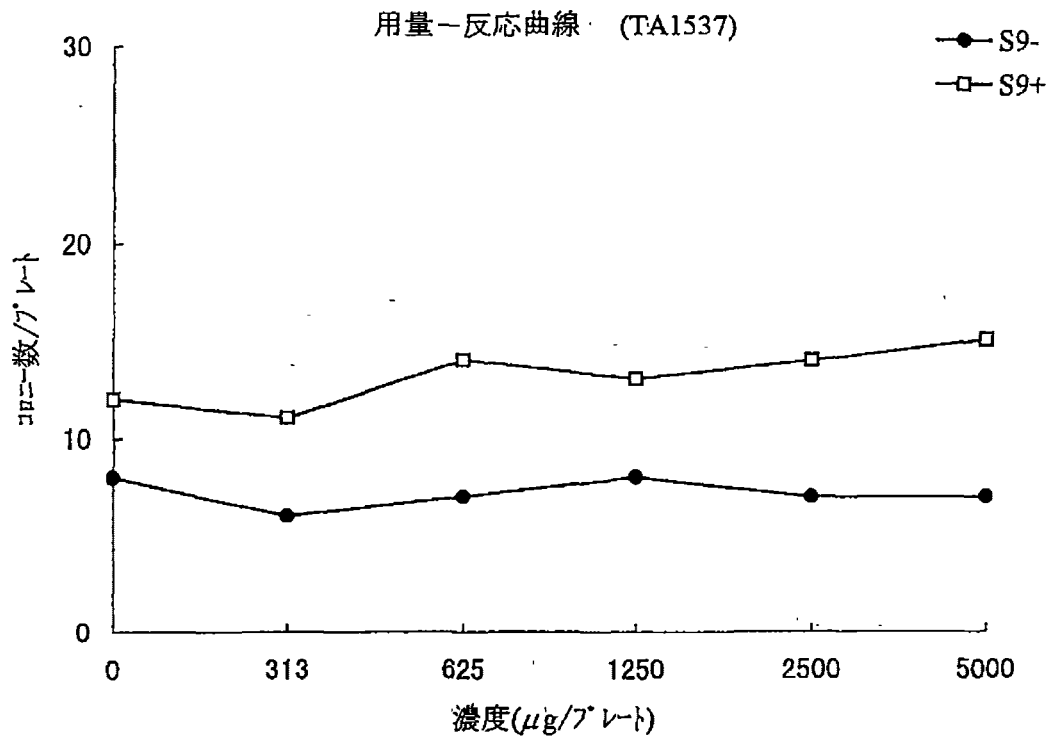


図 6 (本試験 2)
被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

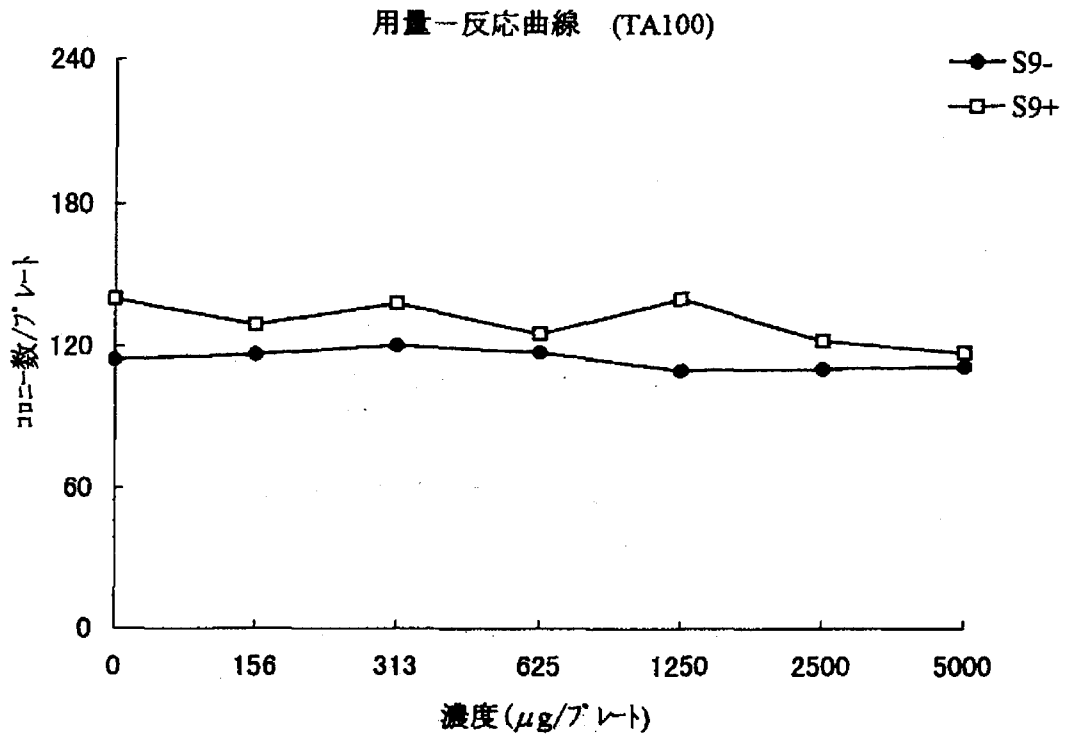


図 7 (本試験 2)
被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

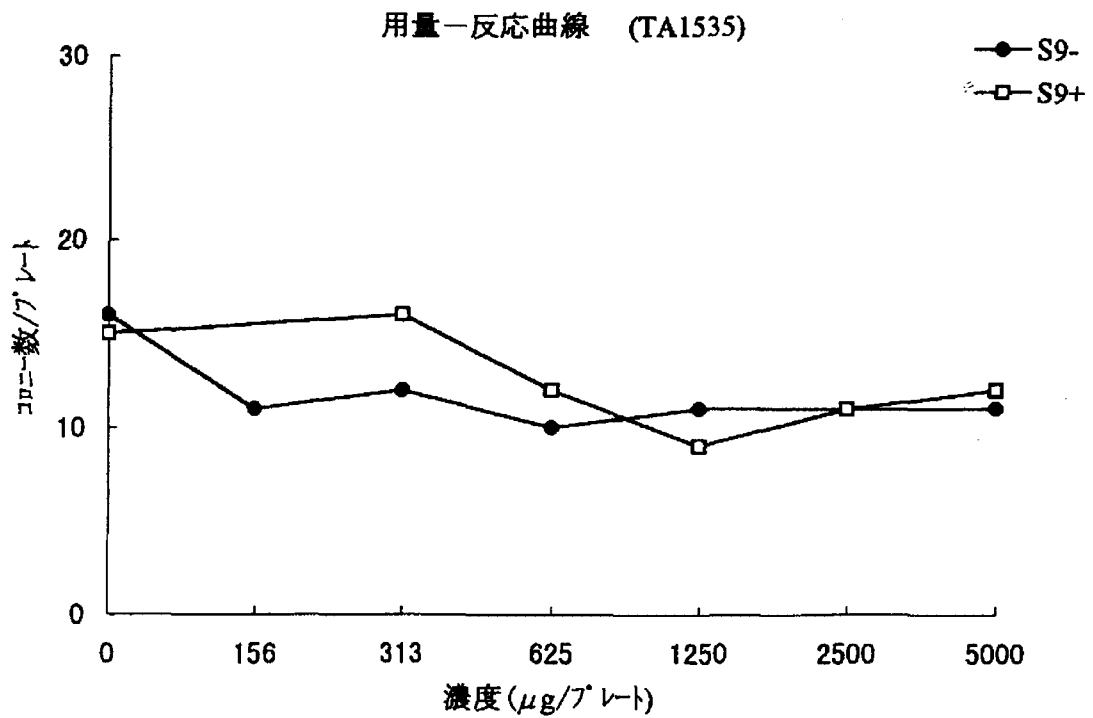


図 8 (本試験 2)

被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

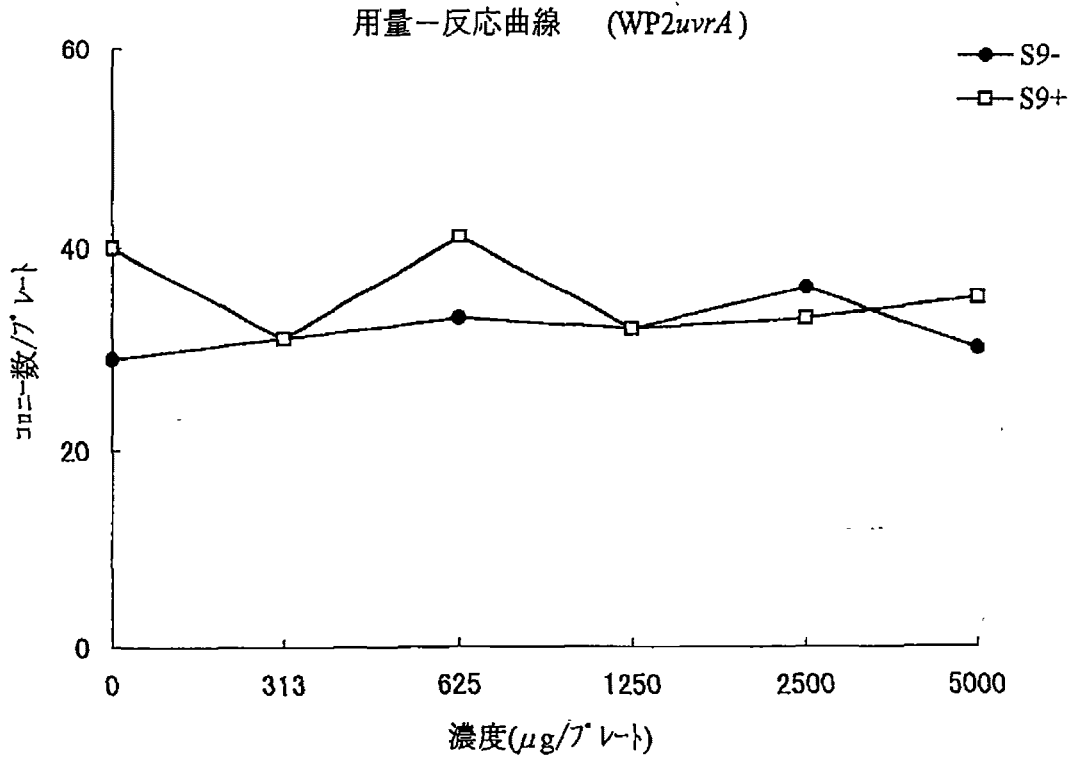


図 9 (本試験 2)

被験物質名：トリメチルシラノール

No.6L682

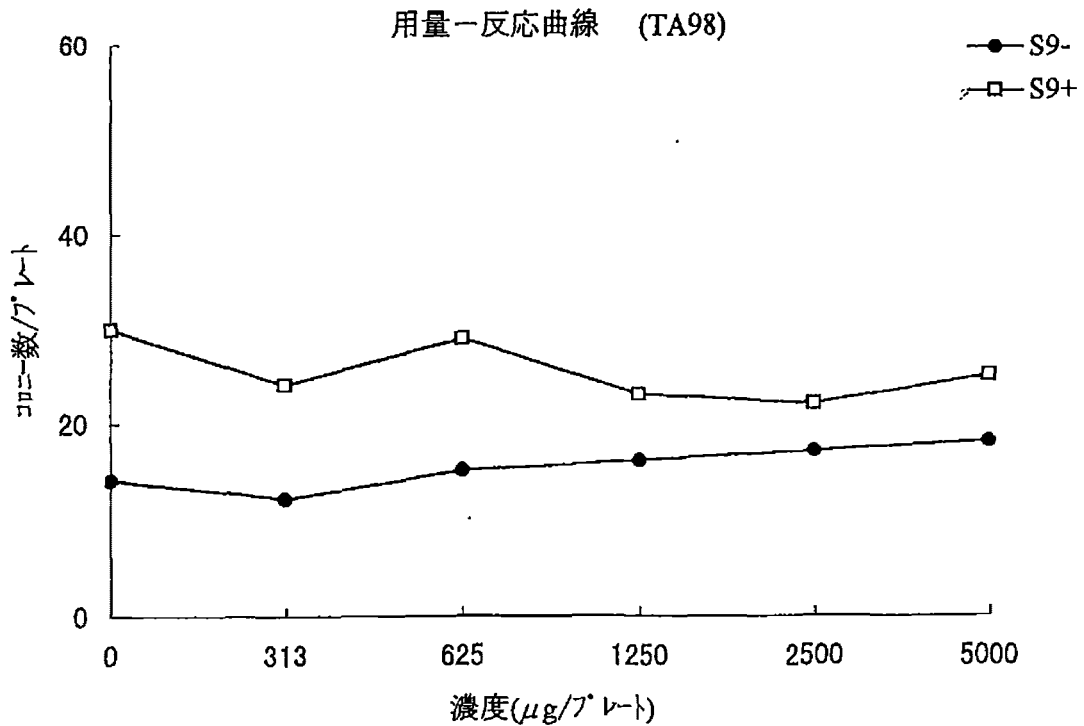


図 10 (本試験 2)
被験物質名: トリメチルシラノール

No.6L682

